

社団法人 日本測量協会

平成17年6月10日発行(毎月1回10日発行) 昭和48年10月13日第三種郵便物認可(通巻651号)

Vol. 55 No.6

THE JOURNAL OF SURVEY

測量

6

2005 June

テクニカル・レポート

航空写真・デジタル地図・レーザスキャナデータの

フュージョンによる 都市3次元モデル構築

私の歩幅
谷川真理

今さら訊けない
職務発明

青色ダイオード事件と特許法改正

数学の物語
回帰直線を求める②

解答速報

グローバル・レーダー
米国の新しいGPS政策

ニュース・ネットワーク

館 潔彦(左) 柴崎芳太郎(右)

●柴崎芳太郎

柴崎は、新田次郎著「劔岳（点の記）」によって有名である。彼は、明治9年（1876）山形県北村山郡大石田町生まれ。20歳ころに陸軍に入る。明治36年（1903）12月、柴崎は陸地測量部の技術者養成機関である修技所の生徒試験に合格。このころの修技所生徒のほとんどは、陸軍の兵役期間をある程度経た者で、数十倍の難関を突破しなければならなかったようだ。明治37年12月に卒業する修技所第12期生徒は柴崎も含めて16名であり、うち11名が三角科（他に地形科、製図科があった）へ配属された。

測量成果にみる柴崎の事績は、明治38年から大正13年ころまで約20年間、中部、北陸、東北、北海道、択捉、千島、満州、台湾などに出張し、300点余りの二、三等三角点を設置したことである。昭和期は資料が見あたらず不明。

明治40年（1907）、三等三角測量の立山地域が柴崎の測量作業地区である。選点した結果「劔岳」を含めて27点の三等点を新設することとなった。既知点には、一等三角点「立山」、二等三角点「鹿島入（鹿島槍ヶ岳）」、「蓮華岳」、「大窓（池平山）」、「大日山（大日岳）」などが使われた。また、三角点の標高は、三等三角点観測時に決定するため、立山、大窓、大日山に標高を与えたのも柴崎である。劔岳は、登頂の困難さから、三等三角点標石・観測器材を運搬することができず、やぐらだけを完成させ、二等「大窓」や三等「別山（劔御前）」など周囲5点からの前方交会法で観測された。劔岳以外にもこの地区には別の難しさがあった。黒部川、称名川の深い谷とこれに対峙する立山、劔岳、鹿島入などの高山、三等三角点の配点密度を考慮すると尾根の中腹にも視通を確保し新点を選ばなければならないことになったことである。

昨年、国土地理院北陸地方測量部は、劔岳測量100周年の事前事業として、柴崎の果たせなかった標石の設置と観測を実施した。標石はヘリコプターで、観測はGPSと柴崎には想像できなかったであろう方法が使われた。2007年には100周年の記念事業が計画されている。🏔